

カンガルーシップ活動
ネイバーサポートプロジェクト
実施報告書

報告日	平成31年1月23日
学校名	愛知教育大学附属特別支援学校
PTA会長名	石原 美保

実施概要	実施活動名	特別支援教育公開セミナー
	実施日時	平成30年12月25日午後5時～午後6時20分
	実施場所	愛知教育大学附属特別支援学校 くすのきホーム（なかよしホール）
	実施目的	近隣の小・中学校、保育園・幼稚園の先生及び保護者を対象に、特別支援教育に関する情報や知識を発信する。
	実施内容	講師講演
	実施方法	特別支援教育に深く携わっている方を講師としてお招きし、講演をしていただく。
	参加人数	本校保護者8名、本校以外保護者7名、本校卒業生保護者2名、岡崎市内小中学校教員5名、市教委1名、放課後デイ1名、本校教員28名 合計52名

報告事項	内容	17:00～17:05 開会 17:05～18:10 講演 講師：日本福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科 教授 木全 和巳 様 演題：「<しょうがい>のある思春期・青年期の子どもたちと<性> ～おとなになりゆく自分を育む～」 18:10～18:20 質疑・応答 18:20 閉会
	結果	講師の木全先生には、以下のような流れでお話をしていただいた。 ・まえおき ・誰にでも訪れる思春期 ・からだの変化への対応 ・こころの変化への対応 ・ほどよいキョリ感を決められるおとなに ・二人の関係は二人で決めるということ ・青年期の育ち直し、学び直し ・改めて大切にしたいこと
	所感	性の問題に困っている保護者のニーズに合った講演会だった。木全先生が障害者の性の問題を当事者自身で解決するための劇団に携わっている様子を紹介するビデオでは、視覚的に対処の方法を示唆していただいた。参加者アンケートからは、好評だった様子が窺えた。 来年度の方向性として、 ◆専門家から生で話が聞ける場は大切にしたい。 ◆開催時期について、講師の選定やその後の折衝を考えると、今年度と同じ冬開催が良い。 ◆開催時間：講師の先生の都合もあるが、午後～夕方の時間帯が良い。 ◆講演内容：特別な支援を必要とする子どもの理解と対応、そこでのソーシャルスキルトレーニング（人とかかわり方）についての内容にしたい。毎年、内容を変更するのではなく、数年間、同じテーマで開催するという方法も考えたい。

添付書類

収支決算書、領収書、参加者の声、写真



提出日	平成31年1月23日
学校名	愛知教育大学附属特別支援学校

カンガルーシップ活動 ネイバーサポートプロジェクト 参加感想

【特別支援学校公開セミナー 参加者の感想】

- ・ 人権の問題から性的問題を学べてよかった。どの子も伸びるし、幸せになる権利がある。障害を抱える人が恋愛をあきらめざるを得ない今の社会の風潮を変えるきっかけを、自分も作り出したいと思った。
- ・ タブー視されがちな性的問題をしっかり学ぶことができた。子どもに向き合う際、この内容を生かせると思う。
- ・ 特別支援教育の中の性ではなく、今の学校でももっと実践的な性教育を行うことが大事だと思った。その中で、支援が必要な子どもたちにどう伝えるか、親として考えていきたい。
- ・ 特別支援の子どもたちに、どうやって性について教えていくのが悩んでいましたが、障害があるなしに関わらず、大切にしなければいけないことは同じということが分かった。勉強になった。
- ・ これまで大学の先生を講師にすることが多かったけど、実際に障害のある人たちの支援に携わっている方のお話は、具体的に深く、とても心に落ちた。性的問題は教師も保護者も理解して学ぶ必要がある。もっと木全先生のお話が聞きたい。
- ・ 腕一本分というフレーズは学校でもよく使われる。先のことまで考えずに自分でもよく言っているなと反省した。資料の例を家でよく読みたい。
- ・ とても分かりやすい話し方だった。子どもとはオープンに性的話をしていこうと思った。
- ・ 異性との適切なかわり方について、一律に「腕一本分の距離をとる」等の指導をしてしまうことの危うさ、悲しさを深く感じた。
- ・ ロールプレイを通じて学ぶという方法があることに驚いた。
- ・ 性教育を避けて通ろうとするのではなく、積極的にかかわっていく必要性を理解できた。マスターベーションをいつから教えるか、ドキドキしている。
- ・ 年齢的にも気になっていた内容だったので、参加した。とてもよかった。年間の保護者会の中の講演会なども、こういった内容でやっていただけたらいいなと思った。
- ・ 抱きつき、くっつきには必ず理由がある。頭の中ではわかっているが、その場になると「離れなさい。」と言ってしまふ自分。もう少しゆとりをもって、子どもをよく観察せねばと思った。
- ・ 子供と向き合い、一緒に考えていきたい。木全先生の優しい笑顔と話し方に心がホッとした。
- ・ 抱き癖がつく、虫歯になる、と言ってスキンシップをあまりとってこなかった。今となっては抱っこできない体重ですが、抱きしめて、どうしてそういう行動をとったのか（自分の思いは捨て）耳を傾けたいと思う。自分の不安が子供の成長の妨げになってしまっていることに気付け、本当にためになった。
- ・ 理想とする我が子で教育してきたが、「自分を大切にできる」ことを大事に、思春期を乗り越えていきたい。
- ・ 「性」だけでなく、「社会の中で生きていくスキル」をわかりやすく伝えていくことが大切なのだと思改めて感じる機会となった。特に「性」教育については、その役割を担うことを、それぞれの立場で積極的に担うこと、また、連携していかなければならないのだろう。難しい。



【校長あいさつ】



【木全先生のご講演】



【ロールプレイングを交えて】



【父母教師会お礼のことば】